

2021 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	吹田 隆徳
研究テーマ	浄土教の起源と発展
研究概要	阿闍世・阿弥陀仏・薬師仏の三仏を取り上げ、比較研究することにより、インドにおける浄土教の起源と発展を調査する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>まずは薬師仏の研究に着手する。《薬師経》諸本（梵・蔵・漢）の中で最も古い『灌頂経』第十二巻（T1331）の現代語訳と、諸本の異同を記した資料を作成した。異同にかんして言うと、既に指摘されているものも含まれるが、例えば『灌頂経』における薬師仏の誓願には聞名思想、女人転成が説かれられないなど多くの点で違いが見られる。比較的短い経典である《薬師経》は、全体像の把握が容易であり、訳出年の明らかな漢訳も複数現存することから、加上の痕跡をたどり易く、主に浄土教の発展を調査する上で良い研究対象であると評価する。尚、作成した資料の公表は来年度となる。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>①単 「<i>manasi-kṛ</i> の意味について：般舟三昧の実践に用いられる場合」『佛教大学仏教学会紀要』（27）, pp. 125-140, 佛教大学仏教学会（2022年3月、査読有）</p> <p>②共 松田和信 他「毒蛇の喩え：第26三啓経の梵文テキストと和訳」『佛教大学仏教学会紀要』（27）, pp. 47-78, 佛教大学仏教学会（2022年3月、査読有）</p> <p>③共 阿毘達磨集論研究会「梵文和訳『阿毘達磨集論』（6）」『インド学チベット学研究』（25）, pp. 63-103, インド哲学研究会（2021年12月、査読有）</p>
3. 競争的資金等への応募と採択	<p>2021年度科学研究費（研究活動スタート支援）「《薬師経》に見るインド浄土教の展開」（採択期間2021年4月1日～2023年3月31日）。</p> <p>2022年度科学研究費（若手研究）「薬師と阿弥陀：インドにおける浄土教の思想的変遷を追う比較研究」（採択期間2022年4月1日～2027年3月31日）。</p>
4. 今後の課題	<p>特に『灌頂経』の伝える誓願には聞名思想が説かれていない点に注目し、この思想が加上された大まかな年代、ならびに理由の解明を試みる。加上に至る経緯を明らかにすることにより、浄土教の発展を跡づける一事例として提示する。</p>